



今から20年以上前、まだ始まって間もなかった「パソコンで地図を作る」という仕事が面白く思い入社しましたが、測量全般のことは何も知りませんでした。予備知識も何もなく、最初は図式規定を覚えることから始まりました。小学校の社会科以来の地図記号でした。

当時はパソコンのスペックも低く（もちろんウィンドウズ誕生以前）、記憶媒体も5インチフロッピー、保存容量は驚異の1メガバイト、2500地形図の等高線データは1図郭分を25分割してファイル保存していたのを覚えています。入力原稿図面をデジタイザに貼り付けて入力していました。データ処理も、ホストコンピュータ、ワークステーションを経て、今ではPCでなんでも処理できるようになりました。時代が進んだなあ、としみじみ思います。

作業内容も、都市計画図、道路管理図、地番家屋図、上水道施設図、下水道施設図、森林図、等々、多岐に渡ってきましたが、ここ10年くら

いは上水道施設データの作成をメインに行ってきました。去年は、災害復興基図を作成する仕事に主任技術者として携わりました。公共性の高い、子供に誇れる仕事だと本当に思います。

そんな中、今も昔も変わらないのは、当社の生産の主体がアルバイトオペレータであることです。当時は年齢の近い人も多く、半分友達感覚で接していましたが、いつの間にかアルバイトの人のお母さんに近い年齢になってしまいました。それでも若い人と接することができるのは色々な刺激をもらえて楽しいものです。

『自分以外の人に自分の考えている事をいかに正確に伝えられるか？』自分は仕様を理解していても上手く伝わってなくて、期待したデータができてこなかったこともありました。パソコン相手の仕事のように見えて、実際は人を相手にする仕事だなあ、とつくづく思います。



懐かしのデジタイザー



作業説明中!

何も知らずに勢いで入ってきたような私に、自由に仕事をやらせてくれた職場のみなさんには本当に感謝しています。入って2年目くらいに上司に言われた言葉を今でも覚えています。

「この部屋（入力室）はお前の城やから好きなようにやってみろ、なんかあったら俺が謝ってやるから!」（今考えてもカッコいいですね★）

この言葉にやりがいを感じ、戸惑いながらも自分で考えて実践する楽しさを覚えました。のびのび働くことができる今の状況の原点になっていると思います。（少しは気を遣えという意見もありますが——…）

測量士の資格を取ってから15年あまり、今年は久しぶりに地理空間情報専門技術認定試験（GIS 1 級）に挑戦しました。自分で思っている以上に記憶力が低下していて愕然としましたが、何とか覚えて乗り切りました。これからも寄る年波に負けずに、楽しくマジメにがんばっていこうと思います。



職場風景